

「私の自まんのお兄ちゃん」

清水心暖

私には三つはなれたお兄ちゃんがいる。お兄ちゃんは、私を「ここ」とよんでいる。

家では毎日けんかをする。本当に毎日だ。けんかをしたくないなんてない。今日だって、お兄ちゃんが悪いんだよ。私がトイレに行くって言ったら、それを聞いてお兄ちゃんったら、私をとばして先に行くんだもん。こわい本なんて読むから一人でトイレに行けなくなっただんじよ。自ごろ自とくだからね。ほかにもある。お兄ちゃんは家でずつとしゃべっていて、うるさいの。毎日、

「今日は、学校で大ニュースがありましたー。」

とか言っつて、どうでもいい大ニュースを話してくる。

「なんとなんと、せきがえをしましたー。」

とか、

「算数のじゆきようで二回も発表しましたー。」

とか。本当にどうでもいいよ、お兄ちゃん。

そんなお兄ちゃんには、ママがいない場所になると、変身する。とくに学校では大変身をとげる。どんな大変身かと言うとね、いつも私を守ってくれたりたすけてくれたりするやさしいお兄ちゃんになるの。しんどいとき、お兄ちゃんのクラスまで行ってつたえると、気もちがほつとする。そしてほけん室までいっしょに行っていく。この前はそのままそばにいてほしくて、お兄ちゃんはそうじに行けなかったんじよ。おこられるかもしれん…って心配してた。ごめんね。でもいっしょにいてほしかったの。お友だちにいやなことを言われたとき

も、泣きながらお兄ちゃんのところまで行って聞いてもらつた。お兄ちゃんは、

「ここ大じようぶだよ。気にしなくていいよ。」
つて言っつてくれた。

みんなに「やさしいね。」とか「こちゃんのお兄ちゃんみたいなお兄ちゃんがほしい。」つて、言われるの。そう言われると、むちゃくちゃうれしくなつちゃう。てれて顔が赤くなつちゃうよ。

でもね、お兄ちゃんが六年生になつてから、ちよつと変なんだあ。やさしいのは変わらないんだけど私が手をつなごうとすると、はらうんだよ。引つ付きに行つたら、ちよつとおして引つ付けないようにするの。

「今までしてくれていたのに何でなん？」

つて聞いたら、

「いやとか、そんなんじゃないから。みんな見てるし。」

つて。

「見てたつていいやんね。」

とお母さんに言つたら、わらつてた。お兄ちゃんは、今、成長とちゆうなんだつて。成長してちよつと落ちついたら、また前みたいに引つ付きにいけるから大じようぶだよつて教えてくれた。

「家では毎日けんかばかりだけど、本当はやさしいお兄ちゃん。いつもありがとう。お兄ちゃんは世界一だよ。やさしいやさしい私の自まんのおにいちゃんへ。ここより。」